

# Special Feature ~ JAZZ x THE BEATLES

## ジャズで聴くビートルズ特集

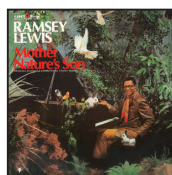
今年4月、待望のポール・マッカートニーの日本公演「アウト・ゼアー ジャパン・ツアー 2015」が実現し、日本中が盛り上がったことは記憶に新しい。中でも、今や伝説となった1966年のザ・ビートルズ日本公演以来、実に49年振りのステージとなった4月28日(火)のポールの日本武道館公演は、幸運にもこの公演に立ち会った人達の数々の証言からも、再び伝説として後世に語られるものとなった。

そのポールとジャズの関係では、2012年に発表した『キス・オン・ザ・ポトム』では、オリジナルの新曲2曲とジャズ・スタンダードのカヴァー12曲が収録され、ダイアナ・クラール(p)の他、ロバート・ハースト、ジョン・クレイトン、クリスチャン・マクブライド(b)等、ジャズマン達が参加した。このアルバムは「ビルボード200」で5位、「(ビルボード) ジャズ・アルバム・チャート」では1位を獲得し、「第55回グラミー賞」では「最優秀トラディショナル・ポップ・ボーカル・アルバム賞」を受賞した。そして、本誌「Vol.28」ではアルバムのプロデューサー、トミー・リピューマとのインタビューが実現した。

既にジョンとジョージはこの世を去っているが、ビートルズの人気は永遠。残された名曲・名演・名盤の数々は、今やスタンダードとなり、ジャンルを超えて世界中のアーティスト達に受け継がれている。

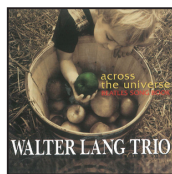
今回の巻頭特集では、そんなビートルズの名曲をカヴァーしたジャズ作品を集めた。この場では全て紹介しきれない程、他にもたくさんの作品がリリースされているが、この特集を機会に、ビートルズを通じてジャズに目覚め、ジャズを通じてビートルズに目覚める人達が増えてくれたら嬉しい。

ジャズ・ピアノで聴くビートルズは心地良く、癒されることもしばしば。特にピアノ・トリオによるビートルズ・カヴァーには名演が多く、選曲を眺めるだけでワクワクさせられ、アドリブやインタープレイも聴き所。今回紹介できなかった作品として、ドン・ランディの『リポルバー・ジャズ』、ビージー・アデルの『イエスタデイ』等も機会があれば聴いて欲しい。



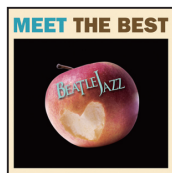
**Ramsey Lewis**  
『マギー・ネイチャーズ・サン〜ビートルズ・ソングブック  
ラムセイ・ルイス』  
(ユニバーサル・ミュージック: UCCU-9744)

『ホワイト・アルバム』収録の名曲をオーケストラをバックにラムセイ・ルイスのファンキーなピアノ・トリオが奏でるビートルズ・カヴァー集。全10曲収録。(1968年作品)



**Walter Lang Trio**  
『アクロス・ザ・ユニバース〜ビートルズ・ソングブック  
ウォルター・ラング・トリオ』  
(M&I: MYCJ-30632)

ドイツ出身のウォルター・ラングが自身のピアノ・トリオで奏でたビートルズ・ソング・アルバム。格調高く、インタープレイが冴え渡る。全11曲収録。(2002年作品)

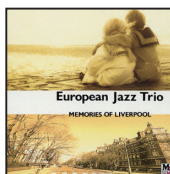


**David Koski**  
『ミート・ザ・ベスト  
ビートル・ジャズ』  
(日本コロムビア: COCB-54126)

デヴィッド・キコスキー率いるピアノ・トリオ「ビートル・ジャズ」が2000、2001、2005、2006年に発表した4作から厳選したベスト盤。全13曲収録。(2014年作品)

## BEATLES by Jazz Piano

### ジャズ・ピアノで聴くビートルズ



**European Jazz Trio**  
『メモリーズ・オブ・リヴァプール〜ビートルズ讃歌〜  
ヨーロッパ・ジャズ・トリオ』  
(トライエム: MECJ-2002)

オランダの人気ピアノ・トリオ「ヨーロッパ・ジャズ・トリオ」がビートルズのヒット・ナンバーを取り上げた作品。叙情的な音楽性が光る。全15曲収録。(1995年作品)



**John Di Martino**  
『ビートルズ・イン・ジャズ  
ジョン・ディ・マルティノ・ロマンティック・ジャズ・トリオ』  
(ヴィーナス・レコード: VHCD-78198)

ビートルズの名曲の魅力をロマンティック・ジャズ・トリオがピアノ・トリオで聴かせてくれる。続編『ビートルズ・イン・ジャズ2』もお薦め。全13曲収録。(2010年作品)



**Louis van Kyll**  
『フレイス・レノン・マッカートニー  
ルイス・ヴァン・ダイク』  
(ソニー・ミュージック: SICP-4287)

<番外編>として、オランダのピアニスト、ルイス・ヴァン・ダイクがパイプ・オルガンによる無伴奏ソロで聴かせるビートルズ・ソング集。全9曲収録。(1964年作品)

“エリナー・リグビー”ジャズ名演”のコーナーでも、ソニー・クリスとジョシュア・レッドマンのアルバムを紹介しているが、ジャズ・サクソとジャズ・トランペットで聴くビートルズも新鮮で心地良い。日本が誇るサクソ・プレイヤー、渡辺貞夫が奏でるビートルズも聴いて欲しいが、リー・モーガンが奏でる「イエスタデイ」はぜひとも一度は聴いて欲しい。

## BEATLES by Jazz Sax & Jazz Trumpet

### ジャズ・サクソ & ジャズ・トランペットで聴くビートルズ



#### サダオ・フレイス・バカラック・アンド・ビートルズ 渡辺貞夫

(日本コロムビア: COCB-31022)

ビートルズ・ナンバー5曲とバカラック・ナンバーを収録した渡辺貞夫(as)の作品。日野皓正(tp)等が参加。ライブとスタジオ音源を含む全9曲収録。(1969年作品)



#### デライトフルリー リー・モーガン

(ユニバーサル・ミュージック: UCCQ-5073)

リー・モーガン(tp)の後期を代表する人気盤。ビートルズの曲は「イエスタデイ」の1曲のみだが、トランペットの音色が最高に美しい。全10曲収録。(1966年作品)



#### ミッシェル〜ガール バド・シャンク〜チェット・ベイカー

(ユニバーサル・ミュージック: TOCJ-50098)

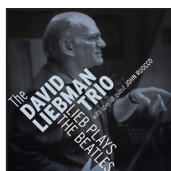
当時発売直後の『ラバー・ソウル』から「ミッシェル」「ガール」に「イエスタデイ」を収録。バド・シャンク(as)とチェット・ベイカー(tp)名義の作品。全10曲収録。(1966年作品)



#### マジカル・ミステリー〜フル・オン・ザ・ヒル バド・シャンク

(ユニバーサル・ミュージック: TOCJ-50100)

当時発売されて間もなかった『マジカル・ミステリー・ツアー』の曲を中心に選曲したバド・シャンク(as)の作品。チェット・ベイカー(tp)も参加。全11曲収録。(1967年作品)



#### リース・フレイス・ザ・ビートルズ デイヴ・リーブマン・トリオ

(Daybreak: DBCHR-74558)

デイヴ・リーブマン(ss, ts, etc)、マリウス・ベーツ(b)、エリック・イネケ(ds)のトリオにジョン・ルオック(ts, cl)がゲスト参加したビートルズ作品集。全13曲収録。(2012年作品)



#### ジャズ・ザ・ビートルズ シナリオ

(Organic Music: ORGM-9729)

シモーネ・サンティエーニ(sax)、アルベルト・マルシコ(org)、エンジ・ジリーリ(ds)からなるトリオ“SCENARIO”によるビートルズ曲集。全11曲収録。(2002年作品)

ジャズ・ヴォーカル作品では、サラ・ヴォーンの名盤が有名だが、ヘレン・メリルが佐藤允彦と共作した作品も素晴らしい。また、ポール・マッカートニー『キス・オン・ザ・ボトム』での縁か、ダイアナ・クラールの『ウォールフラワー』(2014年作品)には、ポール書き下ろしによる新曲「イフ・アイ・テイク・ユー・ホーム・トゥナイト」が収録されている。

## BEATLES by Jazz Vocal

### ジャズ・ヴォーカルで聴くビートルズ



#### ヘレン・メリル・シングス・ビートルズ ヘレン・メリル

(THINK! Records: THCD-35)

ヘレン・メリルが佐藤允彦(p)と共に数か月かけて作ったビートルズのカヴァー・アルバム。ベースは荒川康男、ドラムは猪俣猛が担当。全12曲収録。(1970年作品)



#### ソングス・オフ・ザ・ビートルズ サラ・ヴォーン

(ワーナーミュージック: WPCR-27450)

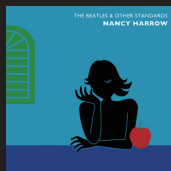
サラ・ヴォーン唯一のアトランティック盤で、マーティ&デヴィッドのベイチ親子プロデュースによるビートルズのカヴァー・アルバム。全13曲収録。(1981年作品)



#### レット・イット・ビー・ジャズ (ビートルズを歌う) ユニー・エヴィンソン

(ガッツプロダクション: GFVS-007)

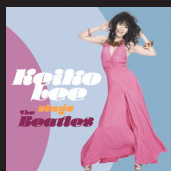
ミネソタ出身の美人シンガー、ユニー・エヴィンソンがポール・マッカートニーのレパートリーを中心にビートルズ・ナンバーに挑戦した作品。全14曲収録。(2003年作品)



#### ビートルズを歌う ナンシー・ハロウ

(MUZAK: MZCF-1203)

60年代にデビューした女性シンガー、ナンシー・ハロウの作品。ローランド・ハナ、ジョージ・ムラツ等々をバックにビートルズ・ナンバーを披露。全13曲収録。(2009年作品)



#### ケイコ・リー・シングス・ザ・ビートルズ ケイコ・リー

(ソニー・ミュージック: SICP-4328)

ジャズ・ヴォーカリスト、ケイコ・リーのビートルズ・カヴァー作品。ムッシュかまやつその他、渡辺貞夫が「イエスタデイ」でゲスト参加している。全12曲収録。(2014年作品)



#### ジャズ・アンド・ビートルズ 1 Various Artists

(BSMF Records: BSMF-5019)

BSMFが贈る“ジャズ&ポッサカヴァー・アルバム”シリーズ第1弾で、女性シンガーによるビートルズ・カヴァーを収録。全14曲収録。続編も有り。(2015年作品)

昭和のジャズを彩った日本のジャズ・ミュージシャンによる『和ジャズ・ブレイズ ビートル・スウィング』シリーズ<赤盤><青盤><白盤>は必聴。この3作品からもビートルズの名曲がどれだけ日本人ジャズ・アーティスト達に愛されていたかがわかる。渡辺貞夫の名盤は“ジャズ・サクソス & ジャズ・トランペットで聴くビートルズ”のコーナーで紹介。

## BEATLES by Japanese Jazz Artist 日本人ジャズ・アーティストで聴くビートルズ



**和ジャズ・ブレイズ ビートル・スウィング 赤盤**  
Various Artists  
(日本コロムビア: COCB-54002)

前田憲男、稲垣次郎等、昭和のジャズを彩った日本のジャズ・ミュージシャンによる1962~66年のビートルズの名曲カヴァー作品。全17曲収録。(2012年に初CD化)



**和ジャズ・ブレイズ ビートル・スウィング 青盤**  
Various Artists  
(日本コロムビア: COCB-54003)

日野皓正、渡辺貞夫等、昭和のジャズを彩った日本のジャズ・ミュージシャンによる1967~70年のビートルズの名曲カヴァー作品。全17曲収録。(2012年に初CD化)



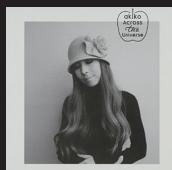
**和ジャズ・ブレイズ ビートル・スウィング 白盤**  
Various Artists  
(日本コロムビア: COCB-54061)

猪俣猛、原信夫とシャープス & フラッツ等、昭和のジャズを彩った日本のジャズ・ミュージシャンによるビートルズの名曲カヴァー作品。全17曲収録。(2013年に初CD化)



**ピアノ・ジャズ・ザ・ビートルズ**  
若井優也  
(Rambling Records: RBCP-2635)

日本のジャズ・シーンで注目の若手ジャズ・ピアニスト、若井優也のトリオに鈴木央紹 (ts) がゲスト参加したビートルズ・カヴァー作品。全12曲収録。(2012年作品)



**アクロス・ザ・ユニバース**  
akiko  
(ユニバーサル・ミュージック: POCs-1047)

akiko(vo)の通算17枚目のアルバムで、ビートルズの名曲を多彩なアレンジを施して、ジャジーに歌い上げたセルフ・プロデュース作品。全8曲収録。(2011年作品)

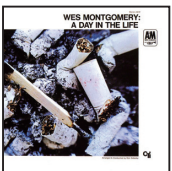


**ピコース**  
山中千尋  
(ユニバーサル・ミュージック: UCCJ-2102)

山中千尋 (p) デビュー10周年を記念して発表されたビートルズの有名曲を中心に構成された作品。シタールやタブラ等、インド楽器も使用。全11曲収録。(2012年作品)

ジャズ・ギターではウェス・モンゴメリーの『ア・デイ・イン・ザ・ライフ』とジョージ・ベンソン『アビー・ロード』が有名だが、ジョン・ピザレリの『ミーツ・ザ・ビートルズ』もお勧め。ジャズ・ベースでは紹介出来なかったがチャーネット・モフェットが『ザ・ブリッジ』、レイ・ドラモンドが『ヴィネッツ』でそれぞれ「エリナー・リグビー」を披露している。

## BEATLES by Jazz Guitar & Jazz Bass ジャズ・ギター & ジャズ・ベースで聴くビートルズ



**ア・デイ・イン・ザ・ライフ**  
ウェス・モンゴメリー  
(ユニバーサル・ミュージック: UCCU-6016)

名ギタリスト、ウェス・モンゴメリーの作品で、タイトル曲「ア・デイ・イン・ザ・ライフ」と「エリナー・リグビー」のビートルズ2曲を含む全10曲収録。(1967年作品)



**アビー・ロード**  
ジョージ・ベンソン  
(ユニバーサル・ミュージック: UCCU-9915)

ヴォーカリストとして活躍前、ジャズ・ギタリスト時代のジョージ・ベンソンが『アビー・ロード』の収録曲をカヴァーしたアルバム。メドレーを含む全5曲収録。(1969年作品)



**ミーツ・ザ・ビートルズ**  
ジョン・ピザレリ  
(ソニー・ミュージック: BVCJ-37562)

人気ジャズ・ヴォーカリスト & ギタリスト、ジョン・ピザレリがビッグバンドを従えて録音したビートルズ作品集。軽快でお洒落な雰囲気満載。全12曲収録。(1998年作品)



**ハンズ〜ソロ・アコースティック・ベース〜**  
フライアン・ブロンバーグ  
(キングレコード: KICJ-559)

フライアン・ブロンバーグの全曲ソロ・ベース作品で「ビートルズ・メドレー・ディ・トリッパノ・イェスタデイ・エリナー・リグビー」が4曲目に収録されている。(2009年作品)



**ビートルズ**  
マルコ・ディ・マルツィオ  
(Wide Sound Jazz Production: WLB-006)

伊ジャズ・シーン注目の俊英ベースマン & シンガー、マルコ・ディ・マルツィオが仲間達と行ったビートルズ・セッションを取めた作品。全13曲収録。(2010年作品)



**オール・ユア・ライフ〜ア・トリブ्यूト・トゥ・ザ・ビートルズ**  
アル・ディ・メオラ  
(JSC International: INAK-9128)

名ギタリスト、アル・ディ・メオラによるビートルズのトリブ्यूト作品で、「アビー・ロード・スタジオ」でアナログ・レコーディングされた作品。全14曲収録。(2013年作品)

カウント・ベイシー楽団によるビートルズ作品集をはじめ、機会があればぜひ聴いて欲しいビートルズ作品集の一部を紹介。『ブルーノート・プレイズ・ザ・ビートルズ』ではスタンリー・タレンタイン (ts)、グラント・グリーン (g)、トニー・ウィリアムス (ds)、ダイアン・リーヴス (vo) 等、総勢 13 名の“ブルーノート”アーティスト達の名演が聴ける。

## Other BEATLES Jazz Album その他、お薦めのビートルズ・ジャズ・アルバム



**ベイシース・ビートル・バッグ**  
**カウント・ベイシー&his オークストラ**  
 (ユニバーサル・ミュージック : UCCU-90122)

ビートルズ人気沸騰中に発表されたカウント・ベイシー楽団によるビートルズ作品集。「イエスタデイ」はビル・ヘンダーソンが歌っている。全 12 曲収録。(1966 年作品)



**ベイシー・オン・ザ・ビートルズ**  
**カウント・ベイシー&his オークストラ**  
 (Ocium Records : OCM-0022)

『ベイシース・ビートル・バッグ』の続編として発表されたカウント・ベイシー楽団のビートルズ作品集。ポップ・フローレンスが編曲担当。全 11 曲収録。(1966 年作品)



**レイク・アナザー・ルック・アット・ザ・ビートルズ**  
**ロンドン・ジャズ・フォー**  
 (Harkit : HRKCD-8365)

マイク・マクノート (p) を中心に英国の 4 人のジャズマンが集結したユニット＝“ロンドン・ジャズ・フォー”によるビートルズ・カヴァー集。全 14 曲収録。(1967 年作品)



**ジャズ・ミーツ・ザ・ビートルズ**  
**ジョシュア・ブレイクストーン**  
 (現在廃盤)

2 作のジョシュア・ブレイクストーン (g) のビートルズ集からケニー・パロン (p) トリオとの演奏を収めた作品。ジャケットデザインも面白い。全 10 曲収録。(1999 年作品)



**カム・トゥゲザー**  
**マンハッタン・ジャズ・クインテット**  
 (ビデオアーツ・ミュージック : VACM-7080)

2004 年に結成 20 年を迎えたマンハッタン・ジャズ・クインテットによるビートルズ作品集。ビートルズ 5 曲の他、クインの 2 曲を含む全 9 曲収録。(2005 年作品)



**ブルーノート・プレイズ・ザ・ビートルズ**  
**Various Artists**  
 (ユニバーサル・ミュージック : TOCJ-66524)

ジャズの名門レーベル“ブルーノート”のアーティストによるビートルズ・カヴァー・コンビ作品で、ボーナス・トラック追加の豪華盤。全 14 曲収録。(2009 年作品)

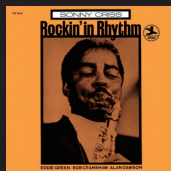
「エリナー・リグビー」は 1966 年 8 月にビートルズがリリースした 13 枚目のオリジナル・シングル（「イエロー・サブマリン」との両 A 面シングル）で、アルバム『リボルバー』の 2 曲目に収録。リード・ヴォーカルはポール・マッカートニー。弦楽八重奏をバックにクラシカルな雰囲気を持つ名曲で、ジャズ・シーンでも数多くの名演が残されている。

## “ELEANOR RIGBY” by Jazz 「エリナー・リグビー」ジャズ名演



**スウィート・ジョージ・フェイム**  
**モニカ・ゼターランド**  
 (ユニバーサル・ミュージック : UCCU-5530)

スウェーデンの国民的女優で人気ジャズ・シンガーでもあるモニカ・ゼターランドの作品。モニカがスウェーデン語で歌う「エリナー・リグビー」が聴ける。(1967 年作品)



**ロッキン・イン・リズム**  
**ソニー・クリス**  
 (ビクターエンタテインメント : VICJ-41343)

ソニー・クリス (as) のリーダー作。ソニーのいぶし銀のアルトによるジャズ・ロック調の「エリナー・リグビー」がアルバムのオープニングを飾る。(1968 年作品)



**ターニング・ポイント**  
**ロニー・スミス**  
 (ユニバーサル・ミュージック : TOCJ-9594)

ロニー・スミス (org) のブルーノート第 2 作。ロニーのファンキーでブルーノートなオルガンとリー・モーガン (tp) を含む 3 管による「エリナー・リグビー」が聴ける。(1969 年作品)



**タイムレス・テイルス**  
**ジョシュア・レッドマン**  
 (ワーナーミュージック : WPCR-2099)

ジョシュア・レッドマン (sax) 初のセルフ・プロデュースによる 6 枚目のリーダー作。ジョシュアの美しいソプラノによる「エリナー・リグビー」が聴ける。(1998 年作品)



**ワーク・トゥ・ドゥ**  
**カール・アレン&ロドニー・ウィテカー**  
 (Mack Avenue Records : MACK-10452)

カール・アレン (ds)、ロドニー・ウィテカー (b) という重低音コンビの双頭バンド作品。妻拍子を取り入れた絶妙なアレンジの「エリナー・リグビー」が聴ける。(2009 年作品)



**ホット・ハウス**  
**チック・コリア&ゲイリー・バートン**  
 (ユニバーサル・ミュージック : UCCO-1116)

グラミー賞に輝いたチック・コリア (p) とゲイリー・バートン (vib) のデュオ作品。アップテンポで 2 人のインタープレイが絶妙な「エリナー・リグビー」が聴ける。(2012 年作品)